

J A 御中  
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会  
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)  
(公 印 省 略)

**営農情報 3**

## 少雨に伴う水稲の技術対策

九州北部地方は梅雨入りも遅れ、降水量が少ない状態が続いています。気象庁の発表では、今後も降水量が少ない状態が続くと予想されていることから、水稲栽培での用水不足が懸念されますので、以下の対策を参考にしてください。

### (1) 漏水防止、水の確保

- ・水路のU字溝の継ぎ目より水が漏れないように、コンクリートやモルタルで漏水を防ぐ。
- ・畦畔のモグラ穴等から漏水しないように、穴をふさぎ漏水を防止する。
- ・可能であれば、ポンプなどを利用して、排水路の水を再利用する。
- ・用水確保が難しいほ場では、水尻のせき板の高さを 5cm 程度に設定し、雨水をほ場内に留める。

### (2) 早期、早植水稲

- ・用水不足の地域において、中干しを行っている場合は、過度の中干しにより保水が難しくならないように、中干し期間を短くする。
- ・一般ほ場では、茎数が確保されたら、過剰分げつ抑制のため、黒乾状態まで中干しする。
- ・4月中旬移植では、幼穂形成期に入っているため、田面が白乾しないよう計画的に配水を行う（計画配水の例は表1を参照）。  
(田面に水がある状態であれば、穂肥は基準通り実施する。)

### (3) 普通期水稲

#### ①育苗管理・・・育苗期間の実用的限界は稚苗で5週間程度のため、田植えが遅れ、苗が徒長・老化している場合は、以下の対策を検討する。

- ・徒長を抑えるため、かん水は控えめとする。
- ・老化対策として、植え付け適期を過ぎても田植えが出来ない場合は、剪葉を行う。植え付け適期の 2.5 葉で田植えができない場合は、伸びきっている第2葉身を 1 / 2 程度を剪葉する。(1回の剪葉で7~10日の苗の保存が可能となる。)
- ・老化防止対策のために育苗期に追肥を行う場合は、育苗箱1箱当たり窒素成分で0.5グラムを施用する。
- ・育苗限界を越えて、田植えの遅延や移植後の枯死が発生する場合は、予備苗の

検討を行う。

- ・ 田植えの予定が経たない場合は、田植時に散布する箱施薬剤は、田植当日に散布する。

## ②本田管理

- ・ 活着期＞分げつ期＞無効分げつ期の順で水の必要性が高いため、生育ステージに応じた計画的な配水を行う（計画配水の例は表1を参照）。
- ・ 移植直後～分げつ開始までは、湛水～潤土状態の管理とし、分げつ開始後は間断かん水を基本とする。
- ・ 田植後、除草剤散布時の用水確保が難しいと懸念される場合は、移植時に登録のある粒剤の施用を検討する。（フロアブル剤やパック剤の使用は避ける。）
- ・ 初期除草剤が散布できなかつた場合は、初・中期または中期除草剤に変更し、登録の範囲内での散布を行う。

表1 節水を目的とした計画配水の例

生育時期	水の必要程度	用水が少ない場合	土壌水分の限界目安
田植直後 (活着期)	最も必要	数回かん水	黒湿り
分げつ期	必要	湿润 (表面を湿らせておく程度)	黒乾
無効分げつ期	必要極少	断水	白乾
幼穂形成期	最も必要	数回かん水	黒湿り

以上